

風車形パイ、未利用魚の缶詰…高校生考案 味わって

21, 22 日能代で「産業フェア」 販売や試食コーナー設置



風車形パイを開発した能代高2年生と加工した「りぼん」スタッフ



未利用魚の缶詰を加工したアースデイ能代実行委メンバー

能代市総合体育館で21, 22日両日に開かれる「のしろ産業フェア」に、市内の高校生が授業や課外活動を通じて立案や加工に携わった菓子や缶詰の販売、試食コーナーが設けられる。生徒は、取り組みの成果を多くの来場者に知ってもらおうと意気込んでいる。

このうち、能代高校2年有志のアイデアを基にしたパイ「エール」は、市内で盛んな洋上風力発電にちなんだ風車の形。浅内の障がい者総合支援センターりぼんが作り、「出張グローバルウィンドデイ」のブースで1個300円で売り出す。

ネギ、ラズベリー、ピザ、くるみ、チョコの4種類があり、くるみチョコ以外は市内産の素材で風味付けした。商品化にはナッツやドライフルーツの専門店木能実(彩霞長根)が協力した。

2年の貝森晴帆さん、近藤祐樹さん、佐藤穂さんが1年時の授業で洋上風力による誘客策をまとめ、その中で風車形パイの売り出しを提案。今年8月から打ち合わせや試食を重ねた。3人は「風力発

電で人を呼び込むために考えた。ぜひ食べてほしい」と力を込める。

持続可能な開発目標(SDGs)の実現へ活動する高校生グループ「アースデイ能代実行委員会」は、安値で出荷できない実利用魚を有効活用しようとサバやイカの缶詰を加工した。カレー、みそ、トマトなどで味付けした8種類の缶詰の試食コーナーを22日のみ設け、食べた感想などを含めたアンケートも募る。

八峰町の漁師から提供を受けた素材を活用し、9月に男鹿海洋高(男鹿市)へ出向いて加工。魚を缶詰に詰める作業などを体験し、計467個を準備した。

今後、アンケートを基によりおいしい味を模索し、ラベルのデザインも考える方針で、将来的には商品化したい考えだ。実行委の小宅茉莉さん(能代高2年)、大塚梓さん(同2年)、原田わかばさん(同1年)は「試食してもらい、SDGsに興味を持ってほしい」と話した。

このほか、能代科学技術高が農作物の販売や学習作品を展示。能代松陽高は22日のみ、スイーツやオリジナルグッズを販売する。

産業フェアは21日が午前10時～午後4時、22日は午前9時半～午後3時半。市内の事業所が取り組みを紹介するほか、逸品販売や屋台村のコーナーもある。問い合わせは産業フェア実行委員会事務局の市商工労働課

☎0185・89・1414

(佐藤辰)

(令和5年10月17日(火) 秋田魁新聞より一部抜粋)